

三重県剣道連盟

とこわか国体だより

第3号 令和3年7月

発行：三重県剣道連盟

（事務局）

〒514-0007

三重県津市大谷町152

大谷ハイム1-202号

Tel:059-226-5975

Fax:059-229-7407

コロナ禍における国体運営

三重とこわか国体まで、残り2か月余りとなりました。現在、三重県剣道連盟の三重とこわか国体実行委員会では、総務部・競技部・強化部の三つの部が、国体に向けて着々と準備を進めています。今年の国体は、コロナ禍での大会ということで、日本スポーツ協会の方針、三重県や伊賀市の新型コロナウイルス感染防止ガイドラインを参考にして、伊賀市国体推進課と共に剣道競技会の運営方法を検討してきました。

決定した剣道競技会の運営方法の概要を、従来の国体と比較する形で紹介します。

項目	従来の国体	今回の国体
1 開会式の参加者	選手・監督全員が参加	選手・監督は参加しない
2 開会式の内容	集団演技 開会宣言 国歌斉唱 前回優勝チームトロフィー返還 挨拶（3～4名） 審判長の試合場の注意 閉会后、日本剣道形	— 開会宣言 国歌斉唱（声を出さず心で斉唱） 前回優勝チームトロフィー返還 挨拶（大会会長1名） — —
3 表彰式	1位～8位を表彰式で表彰	1位～4位を表彰式で表彰 5位～8位は別場所で賞状を渡す
4 閉会式	挨拶（大会会長・市長の2名）	挨拶（市長1名）
5 大会要項	試合は、時間内に勝敗が決しない場合は、勝負が決するまで延長を行う	試合は、時間内に勝敗が決しない場合は引分けとする。勝者数、総本数が同じ場合は、代表戦を行う
6 選手控所	全選手・監督の控え場所あり	入替え式とする
7 1階応援席	全選手・監督が自由に観戦可能	入替え式とする
8 2階観覧席	指定なしで自由に観戦可能 <ゆめドームの場合：1,100席>	原則、選手関係者及び一般観客とし、三重県国体来場者管理システムにより申し込む（※） <ゆめドーム：550席>

※2階観覧席への入場につきましては、改めて支部を通じて詳細を連絡いたします。

なお、競技の運営にあたっては、当然のことながらマスク・フェイスシールドの着用、アルコール消毒、検温、体調管理、フィジカルディスタンスの確保などの新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行います。

ご来場の際は、安全・安心な競技会運営にご協力をよろしくお願いします。



三重とこわか国体総合優勝 に向けて

強化練習報告(成年男女)

強化副部長 西 尚正

三重県剣道連盟は、全日本剣道連盟の新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動自粛要請により、令和2年3月から6月まで「三重とこわか国体」に向けた強化練習を中止または延期しました。

7月になって自粛解除後に強化練習が再開されても警察官の活動自粛は解除されず、成年男子の国体候補選手は多くが警察官であったため、練習の参加者が激減し、不安な練習が続きました。

そのため三重県剣道連盟は、成年男女とも国体候補選手の再編を決定し、令和3年2月から男子14名、女子8名の候補選手を新たに選考して、強化活動を再開しました。



船津アドバイザー

足の作りから

技の習得へ

再編された候補選手の強化活動は、毎週月曜日の三重武道館での練習と会場を各地に移した休日の練習で再開し、毎回、本県アドバイザーの船津晋治先生のご指導で、厳しい稽古に励みました。

当初、その強化練習の内容は、「試合で使える足をつくる」を目的とした追い込み稽古が中心でした。試合場2面を使っての切り返し、連続での面、小手面を中心に毎回40分ほど、時には1時間に及ぶこともありました。このよう

な稽古が約4か月続き、大変苦しいものでした。

若い選手だけでなく、中高年齢層の選手も一緒に取り組みましたが、準備体操や整理体操を念入りに行うなどして大きな怪我もなく足腰を鍛えることができました。

5月下旬から追い込み稽古中心の内容から、実践的な技の習得を中心とした内容に移りました。それは打突までの攻め、打突方法、発声、試合への心構えなどで、実践的な内容を具体的に丁寧に説明していただいています。

例えば、面一面の連続技では「足を使った攻めで間合いを詰める」「一本目の面は相手の目を攻めるよう打突する」「相手が驚きのけぞったところに二本目の面を打つ」「相手が手元を挙げて受けた場合は手首を返して左面を打突する」「さらに有効打突にしなければ三本目の面を打突するか、体当たり後に引き

面に変化する」「面の発声は(めんー!)ではなく(めえーん)の(え)を強く、激しく(えっー!)と発声すると切れのある打突に繋がる」といったような指導です。

選手たちはしっかり理解したうえで反復練習し、習得に励んでいます。その成果のひとつとして、6月5、6日(土日)に栃木県への遠征では、積極的に攻めて、相手の技が尽きたところを追い込ん



給水のひととき

でいる場面を多く見る事ができました。選手の鍛えられた試合運びの姿から、他県の複数の指導者の先生方からお褒めの言葉をいただきました。

また、6月19、20日(土日)の合宿では、船津先生の尽力により全国大会で活躍した先生方に指導していただき、基本動作の確認やそれぞれの先生方が得意とする試合での攻め方や技を学びました。今回学んだ技や基本動作を反復練習し大会に向けて精進します。

大会まで2か月余りとなりました。これまでコロナ禍の中で思うような対外試合を計画できていませんでしたが、7月になんとか和歌山県、福岡県、熊本県、鹿児島県への遠征を計画することができ、実施してきました。

練習試合では強化練習で鍛えた身体と習得した技を試してきました。また、大会まで

に県内での合宿を数回計画しており、技術はもちろんチームワークを強化したいと考えています。このように残りの期間をしっかりと稽古に励み、最大の目標である本大会での勝利をめざします。

成年女子と国体

井上 美奈子



令和元年度国体東海ブロック大会 優勝

平成9年、国体の成年男子2部に代わり、成年女子の部ができました。

成年女子は、成年男子のように各県から1チーム出場できるわけではなく、国体東海ブロック大会で優勝しなければ、本国体に出場することができません。

ブロック大会は毎年8月後半に行われ、そのために強化稽古や遠征を行い大会に臨みます。しかし当時の愛知県、岐阜県、静岡県は、三重県に比べ選手層も厚く、なかなか優勝することができず、毎年悔しい思いをしてきました。

その悔しさを励みに稽古を積み、成年女子ができて9年目の平成17年、努力の成果が実を結び、念願の初優勝を果たし、岡山国体に出場することができました。

その時の選手は、先鋒 西村奈津子(現北林)、中堅 安達有香、大将 尾上菜智、監督が私でした。そして初出場であ

りながらも、五位入賞という好成績を収めました。

その後は、平成18年兵庫国体、平成20年大分国体(五位入賞)、平成23年山口国体、令和元年茨城国体に出場しています。

そしていよいよ、10月に開催される三重とこわか国体まで残りわずかとなりました。

地元開催に向け、平成29年度から始まった強化事業には絶えず力を入れてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年度の行事はほぼ中止となり、昨年開催が予定されていた鹿児島国体も令和5年に延期となりました。一昨年に、8年ぶりにブロック大会で優勝し、出場を果たした茨城国体では、惜しくも1回戦敗退という結果に終わってしまい、来年こそはと、気持ちも一丸となり、強化に励んでいただけに、鹿児島国体の延期は残念でなりませんでした。

そんな想いの中で開催される三重とこわか国体。

毎年、「優勝しなければ本国体に行けない」というプレッシャーと戦っていたプロック大会に出ることなく、出場権が与えられています。

地元開催ということで今回は「本国体で優勝しなければならぬ」というプレッシャーはありますが、月に1回のペースで始まった国体強化稽古会も、今では平日に週1回、土日の両日に於いては、遠征または強化稽古を行うなど、強化の加速度も増えています。今後も強化を積み、必ず総合優勝を勝ち取れる体力、技術、精神力を作りたいと思います。

引き続き、三重県剣道連盟会員の皆様のご理解、ご協力、そしてチームみえの応援をよろしく願います。

東海高校総体結果

三重県高体連剣道専門部
専門委員長 大川慶



去る6月19日(土)、20日(日)の両日、伊賀市の三重県立ゆめドームうえのに於いて、第68回東海高等学校総合体育大会剣道競技が開催され

ました。昨年はコロナ禍により中止となった為に2年ぶりの開催となりました。

10月に同会場で開催される三重とこわか国体少年の部での全国制覇に向けて、数年前から強化を続けてきた成果を東海地区強豪校相手に試す絶好の機会という大変重要な意味を持つ大会となりました。

《個人戦》

**男子は三重が上位独占の快挙
女子は鈴鹿 加藤が優勝!!**

個人戦は、本県から、男子は、藤堂、中西、田口、宮崎、向井、浅尾(三重)、武田(白子)、小林(四日市工業)、女子は、加藤、黒木、坂井(鈴鹿)、長谷川(四日市工業)、西村、遠藤(三重)、山下(白子)、伊藤(桑名)の各8名が出場しました。

男子は、三重高校の5名が初戦を突破、藤堂、中西、田

口、宮崎の県予選上位4名が、各県の1位、2位の強豪選手を相手に持てる力を十二分に発揮して堂々と勝ち進み、ここ最近では記憶に無い「同一校による個人戦ベスト4独占」という快挙を達成しました。準決勝以降も東海チャンピオンを決めるに相応しい互いに力をぶつけ合うような素晴らしい試合により、藤堂文太(三重・3年)が見事優勝しました。



個人入賞 三重高校選手



個人優勝 鈴鹿高校加藤選手

女子は、全体的に初戦から苦戦を強いられ、接戦ながらも敗退していく中、県予選1位の加藤里佳(鈴鹿・2年)が一人大いに気を吐きました。

唯一、初戦を勝ち上がった勢いで、他県の強豪選手を相手に準決勝以外は全て時間内に一本を取るという積極的な試合を展開し、決勝戦でもこの日冴え渡った思い切りのよいメンを決めて、2年生ながら見事に個人優勝を勝ち取りました。

【男子結果】

- 優勝 藤堂文太(三重・三重)
- 2位 中西健吾(三重・三重)
- 3位 宮崎睦士(三重・三重)
- 3位 田口悠斗(三重・三重)

【女子結果】

- 優勝 加藤里佳(鈴鹿・三重)
- 2位 石野美沙季(東海大翔洋・静岡)
- 3位 増尾涼香(磐田東・静岡)
- 3位 松田萌華(磐田西・静岡)

《団体戦》

団体戦は男子は三重

女子は鈴鹿がともに3位!

本県から、男子は、三重、高田、桑名、鈴鹿、女子は、鈴鹿、四日市工業、白子、三重の、各4校が参加しました。

男子は、各校が予選リーグで敗退していく中、個人戦で

上位を独占した三重高校が無難に勝ちを重ね、リーグ1位で決勝トーナメント進出を果たしました。

1回戦、3月の東海選抜大会決勝で敗れた高山西(岐阜2位)に大将戦で競り勝ちました。

次の準決勝では、磐田東(静岡1位)に0勝1敗で回ってきた大将戦で、一本先取された後に意地で2本を取り返して代表戦に持ちこみましたが、そこで力尽きて3位という結果に終わりました。

女子は、鈴鹿と三重が、予選リーグ1試合目ともに敗れたものの、2日目は開き直ったような思い切った試合で後の2試合を勝利し、見事に決勝トーナメント進出を果たしました。

1回戦、同県対決となった鈴鹿対三重は、4勝1敗という大差で鈴鹿の勝ち。準決勝では、済美(岐阜4位)と対戦し、先鋒、次鋒でリードを許しながら、副将黒木、大将

松原が思い切った技で追いつけたものの、2勝(2本)2敗(3本)の本数負けという結果に終わりました。

【男子結果】

- 優勝 磐田東(静岡)
- 2位 名古屋(愛知)
- 3位 三重(三重)
- 3位 星城(愛知)

【女子結果】

- 優勝 磐田西(静岡)
- 2位 済美(岐阜)
- 3位 高山西(岐阜)
- 3位 鈴鹿(三重)

ここ数年、東海総体・東海選抜大会での本県は、なかなか上位に勝ち上がれない年が続いていましたが、国体に向けて全県をあげての強化により、近年に無い素晴らしい結果を残していただきました。それと同時に、強豪選手相手にいかに勝ち切るか、引き分けありの国体での団体戦の試合運びなど、多くの課題も見

つけることができた意味のある大会となりました。

三重とこわか国体本番に向けて、そのような課題を念頭に置きながら強化を継続し、皆で少年の部男女優勝を勝ち取りたいと考えています。

今後変わらぬご指導、ご鞭撻をいただきますよう、よろしく願います。

また、今大会はコロナ禍の中で難しい運営となりましたが、三重県剣道連盟の方々をはじめ多くの先生方・生徒の皆さんのご協力のおかげで、大きな事故やトラブルもなく、無事に大会を終えることができました。改めて御礼申し上げます。

今後とも三重県高体連剣道専門部の活動に、ご理解・ご協力賜りますようお願いいたします。



国体寄附金の状況

平成30年9月から進めてまいりました三重とこわか国体に向けた寄付金は、令和3年6月末現在で千百九十九万円になりました。

皆さまの多大なるご協力、心から感謝を申し上げます。

項目	目標額 (千円)	賛同者数	実績額 (千円)
総 額	12,000		11,990
内 訳	会 員	747 人	7,068
	剣道団体	88 団体	1,795
	支 部 等	14 支部	1,092
	企 業 等	76 社	2,035

令和3年6月30日現在



三重とこわか国体
ときめいて人 かがやいて未来 2021
三重とこわか大会

第76回国民体育大会

第21回全国障害者スポーツ大会

